

平成30年度 弥富市学校教育基本方針

弥富市教育委員会

弥富市教育委員会は、第1次弥富市総合計画の、「みんなでつくるきらめく弥富 自然と都市が調和する元気交流空間」、「人が輝き文化が薫るやとみ」の実現に向け、学校教育の充実、生涯学習社会の形成、スポーツの振興、文化芸術の振興、青少年の健全育成、国際化・交流活動の推進に努めている。

学校教育においては、今年度も引き続き、市民憲章の理念および第1次弥富市総合計画はもとより学習指導要領の趣旨、愛知県教育委員会の示す基本理念を踏まえ、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力など生きる力をはぐくむ特色ある教育の一層の充実、信頼される学校づくりの推進をする必要がある。

弥富市の児童生徒が、生涯にわたって学び続け、たくましく心豊かな人間として成長を続け、充実した人生を送るための基盤となる力を培うとともに、明日の弥富市および平和な国際社会を担う社会人としての資質の育成をめざし、次の基本方針のもと、本年度の指導の重点事項を設定する。

各学校においては、この基本方針に沿って、校長の指導のもと全教職員が協力し、情熱と愛情を持って、具体的・実践的な方策を立て、児童生徒の健全な成長に向けて努力されることを期待する。

1 基本方針

めざす児童生徒像を「一人一人が輝き、よく学び 心豊かで たくましい 弥富の子」とし、児童生徒の「生きる力」の育成、それを支える学校の教育力の向上を図る。

○ 知・徳・体のバランスのとれた生きる力、児童生徒の将来に生きる力を育む。		
知	徳	体
・ 自ら学ぶ意欲を高め、 確かな学力を養う。	・ 自他を大切にし、ともに 心豊かな生活を築く 態度を培う。	・ 命を尊び、心身を鍛え、 たくましく生きる力を 養う。
○ 児童生徒の成長を支える環境、信頼と魅力ある学校づくりを推進する。		

2 指導の重点事項

(1) 生きる力の育成

① 児童生徒の将来に生きる力の育成

ア 中学校の平和教育の推進を図る

別紙1

広島研修（中学校2年生対象）を実施し、平和と人権を尊重し、国際社会を生きる生徒を育成する。

イ 小中学校が連携して英語教育の推進を図る

別紙2

32年度から、全面実施される小学校英語への移行と中学校英語との連携を図り、国際社会を担う児童生徒を育成する。

ウ 小中学校キャリア教育の推進を図る

別紙3

発達段階に応じた体験や見学等の学習を地域の方々の協力を得ながら実施する中で、自己の生き方を考えることができる児童生徒を育成する。

② 確かな学力の育成にむけて（知育）

ア 32年度全面実施の学習指導要領へスムーズに移行できるように教育課程の編成を行い、各学校の特色ある取り組みを推進する。

イ 少人数指導やティームティーチング等、指導方法の工夫・改善を行い、きめ細かい指導により、基礎基本の確実な定着を図り、学力向上に努める。

ウ ICT機器の有効活用を通して、児童生徒の学びを豊かにするとともに授業の効率化を図る。

③ 豊かな心の育成にむけて（徳育）

ア 道德教育

- ・ 学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の要である特別の教科道德（中学校は30年度まで道德の時間）で、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める。
- ・ 自立心や自律性、自他の生命を尊重する心の育成をめざして人権を尊重する精神を養い、人間としてよりよく生きていくための道徳的実践力の向上に努める。
- ・ わが国および地域の伝統や文化などを学ぶとともに、弥富市民憲章を児童生徒の発達段階に応じて活用するなどして、地域に根ざした生き方を考え、よりよい社会の形成に主体的に参画しようとする態度を育てる。

イ 生徒指導

- ・ 自他を大切にする心を育て、いじめをはじめ、人間として許されない行為に対しては、毅然とした態度で粘り強い指導を徹底する。各校のいじめ防止基本方針をもとに、全校をあげて予防と早期発見・早期解決に努める。
- ・ 児童生徒理解に基づく共感的な生徒指導を推進し、一人一人が学校生活に充実感・満足感を実感できる指導の工夫をする。また、教育相談活動を充実させ、いじめ・不登校の未然防止に努める。

④ 健康な心身の育成にむけて（体育）

ア 心身の健康

教育活動全体を通して、体力向上、健康の保持・増進のために、運動に親しむ習慣や基礎的な体力を身に付けさせる。生徒の自主的・自発的な活動によって行われる部活動を適正に実施し、心身の育成を図る。

イ 自校方式の利点を生かして、給食指導の充実と食に関する指導を推進する。

ウ スクールカウンセラー・心の相談員等を配置し、教育相談活動を充実させ、いじめ・不登校の未然防止に努めるとともに、不登校児童生徒の教育相談および適応支援に向けて適応指導教室「アクティブ」との連携を深める。

(2) 信頼される魅力ある学校づくり

① 開かれた学校に向けて

ア 地域の教育力の発掘と活用を通して特色ある学校づくりに努めるとともに、適切な学校評価の実施を行い、学校と家庭・地域の連携協力のもとで学校運営の改善に努める。

イ 市青少年問題協議会をはじめ、関係諸団体・機関および地域との連携を図る中で、青少年健全育成などの取り組みに努める。

② 特別支援教育の充実

ア 特別支援学級の児童生徒および通常学級所属で特別な支援を要する児童生徒等、児童生徒一人一人の教育ニーズを把握し、適切な教育的支援を行うなど特別支援教育の充実を図る。

イ 児童生徒の状況に応じて、教育委員会と関係相談機関および医療機関との連携を図り適切な支援に努める。

③ 安心・安全の確保

ア 津波や台風、風水害など多様な自然災害を想定した避難訓練を地域と連携して実施し、市全体の防災意識の向上に努める。

イ 学校相互及び学校・家庭・地域が一体となって防犯・防災・交通安全・衛生管理等における危機管理体制の充実を図り、児童生徒の安心安全な居場所としての学校づくりに努める。また、スクールガード等の地域の支援者との連携を大切にする。

④ 教職員の力量向上に努める

管理職やミドルリーダーを対象とした研修や少経験者を対象とした授業研修など、市主催の研修会をはじめ、教職員研修の充実に一層努めるとともに、各学校の現職教育や教育研究活動を充実させ、教職員一人一人の資質・能力の向上に努める。

⑤ 校務支援システムの導入と活用

I C T機器の有効活用を図り、学校における事務処理の効率化を図る。

(3) 学校の枠を超えた取り組み

① 児童生徒の健全な生活習慣を育成するために

全小中学校が「あいさつと返事」、「履き物をそろえる」、「時間を守る」の励行を共通の努力事項として取り組む。

② 幼・保・小・中・高の連携

「幼・保・小・中・高」それぞれの目的に応じた連携を推進する。特に、「小・中」については、中学校区ごとに、生徒指導、道徳指導、教科指導等について、その校区の状況に応じた課題解決に向けた小中学校の連携を推進する。また、必要に応じて、幼稚園・保育所・高校との連携も図るように努める。教育委員会ははじめ関係諸機関・団体とも連携を図りながら、児童生徒の健全育成に向けた取り組みを推進する。さらに、学校間の連携を密にするために、職員の各役職や担当者間の連絡会の充実に努める。

③ 市内他中学校への部活動参加

市内他中学校への部活動参加について希望する生徒がある場合は、「市内他中学校への部活動参加実施要領」に沿って実施する。

平成30年度 弥富市立中学校の平和教育の推進について

1 平和教育の目的

- 将来、国際社会を生きる生徒に、平和と人権を尊重し世界恒久平和の実現に向けて貢献する意欲や実践的な態度を身につけさせる。
- 自他を尊重し合い、日本の社会や文化に対する理解と愛情を深めるとともに、国際理解や国際協調の精神を養う。

2 平和教育推進の方針

- (1) 弥富市の平和教育は、「広島研修」の実施を中心に据え、教育基本法および学校教育法に示されている理念のもと、学習指導要領に則って実施する。
- (2) 生徒を被爆地である広島へ派遣し、実際に見たり聞いたりする体験を通して、世界恒久平和の実現に向けて貢献する意欲や実践的な態度を養う。
- (3) 道徳、各教科、総合的な学習の時間および特別活動等との関連を図ることで、「平和を尊重する心」を多角的に育てるように努める。
- (4) 教育基本法第14条に基づき、政治運動等との関係は明確に区別し、教育の中立性を確保する。

3 広島研修および事前・事後学習年間計画

(1) ねらい

戦争体験講話や被爆地である広島での研修をもとに、戦争の悲惨さや怖さを理解させ、平和を願う心情と恒久平和実現に向けて貢献しようとする意欲を養う。

命の尊さを理解させ、人間尊重の精神を日常生活に生かし、自他を大切にしていこうとする態度を育てる。

(2) 指導過程（広島研修および事前・事後学習）

① 事前・事後学習 別表

② 広島研修

期日：平成30年11月8日（木）・9日（金）－弥富中学校
平成30年11月6日（火）・7日（水）－弥富北中学校
平成30年11月7日（水）・8日（木）－十四山中学校

宿泊先：国立江田島青少年交流の家

所在地 広島県江田島市江田島町津久茂1-1-1

主な内容

- 1日目 平和記念公園での見学・研修、折り鶴の献呈、被爆ピアノ講話
- 2日目 広島県内の平和関係施設の見学

(3) 道徳・各教科等との関連

道徳、各教科、総合的な学習の時間および特別活動等では、平和教育に関連する教材や題材を通じて、広島研修の事前研修や事後研修と関連付けながら指導にあたる。また、平和に関する学習については、教科、道徳等の時間にかかわらず、できるだけ多くの学校生活の場面で機会をとらえながら指導にあたるようにする。

別表

広島研修および事前・事後学習指導過程（例）

24時間完了（広島研修12時間を含む）

過程	月日	内 容
ふれる 2時間	3 ～ 7月	<p>1 事前アンケート 対象 第2学年生徒 【1時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2年生、一人一人の意識調査（アンケート）を行い、戦争、平和についての認識の把握を行う。 ○ 平和学習の指導における課題を知り、事後の指導につなげる。 <p>2 「戦争体験についての講話・映画会」 対象 全校生徒・職員・保護者 【1時間】</p> <p>内 容 戦争体験・被爆体験講話や映画会等を行い、戦争の悲惨さ怖さを知り、平和について関心を深める。</p>
つかむ 5時間	7・ 8月 9・ 10月	<p>3 「戦争を知る」 対象 第2学年生徒 課題説明・・・【1時間】 課題追及・・・【夏休み】</p> <p>一人一人が戦争について課題を見つけ、調べ、戦争がもたらす影響についてまとめ、平和について考えたことをレポート等にまとめる。</p> <p>内 容 課題を見つけ、インターネットや書籍を利用して調べ、戦争の悲惨さ、平和の尊さについて思ったことや考えたこと等をレポートにまとめる。</p> <p>4 「広島研修 事前学習」 対象 第2学年生徒 【4時間】</p> <p>内 容 広島研修の意義の理解と夏休みのレポートをもとに戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ レポート発表（2時間） <ul style="list-style-type: none"> ・ 第二次世界大戦の悲惨さを知り、平和の尊さについて考える。 ・ 原子爆弾が投下された広島について学習を深める。 ※ 平和宣言都市である弥富市の市民として恒久平和の実現に向けて努力していく意義を知る。 ○ 広島平和公園の周辺を調べる。（1時間） <ul style="list-style-type: none"> ・ 原子爆弾や戦争について学習を一層深めるため、適切な訪問場所を考える。 ○ クラス別自主研修の計画を立てる。（1時間）
ひろげる 1時間	11月	<p>5 「平和へのメッセージの発信」 対象 全校生徒・職員 【1時間】</p> <p>各中学校としてのアピールを行う。 全校生徒と教師による折り鶴の作成。</p> <p>内 容 事前資料（サダコと折り鶴の話）で、意義を知り、一人2個から3個作成。折り鶴に平和へのメッセージを書き、広島平和公園へ届ける。（広島平和学習時に行う）</p>
つかむ 14時間	11月	<p>6 「広島研修とまとめ」 対象 第2学年 【14時間】</p> <p>内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島研修に出かける。（12時間） <ul style="list-style-type: none"> ・ 広島市内にある様々な戦争の資料にふれ班別に学習を深めさせる。 ○ 学習したことをまとめる。（2時間） <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習から現地学習、事後学習を含む学習全体のまとめをする。
まとめる 2時間	12 ～ 1月	<p>7 「平和学習週間での啓発」 対象 全校・保護者・職員 【1時間】</p> <p>内 容 各中学校の平和週間として「平和集会（人権関係も含む）」、平和学習成果発表展示（2年生）を行う。</p> <p>8 次年度への学習に向けてのアンケートの実施（2年生） 【1時間】</p> <p>「平和学習」への生徒の学習の広まり、深まりを生徒・教師が振り返り、確認をし、次年度の学習につなげる。</p>

○ 市の平和パネル展 各中学校の取組内容もしくは報告内容を展示

平成30年度 弥富市小中連携英語教育研究推進について

1 弥富市の英語教育のねらい

明日の弥富市および平和な国際社会を担う社会人としての資質の育成をめざすために、英語教育を児童生徒の将来に生きる力の重要な要素としてとらえ、本市の全小中学校の英語教育の充実とその質の向上、指導者の指導力向上を図る。

小学校学習指導要領の外国語活動・英語の目標を踏まえ、本市小学校の英語教育の目標を以下のように設定し、中学校の英語教育への学びの連続性を図る。

小学校学習指導要領（外国語活動・英語の目標）

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーションの素地を養う。

弥富市小学校 英語教育の目標

- 【3・4年生：「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション能力の素地の育成】
- 英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を図る。
- 【5・6年生：「読む」「書く」の育成も含めたコミュニケーション能力の基礎の育成】
- 多様な言語や文化への理解を深め、進んでコミュニケーションを図ろうとする意欲・関心を高め、読むこと、書くことに慣れ親しむ。

弥富市中学校・英語教育の目標

- 身近な話題についての理解や表現、情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。（互いの気持ちを伝え合う言語活動を中心とした対話型の授業づくりの促進）

2 研究推進の方向

平成32年度からの学習指導要領全面実施に向けて、小学校英語への移行措置の実施、指導体制の確立の研究を進めたい。具体的には、3・4年生から「聞く」「話す」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、5・6年生では、「読む・書く」を含む4技能を総合的・系統的に扱う教科学習を行っていきけるよう研究を進めていく。

中学校では、小学校での学びの連続性を図っていくことが必要であるため、小中連携のさらなる強化をめざす。また、CAN-DOリスト（中学校版）を活用して、生徒に明確な達成規準を示し、目標をもたせることで英語力の向上を図る。

小中連携を推進するため、小中学校の教務主任を中心に研究を推進する。

3 研究内容

- (1) 指導法や指導内容の工夫
 - 教材・教具の工夫、1単位時間の指導の流れの工夫、ALTの有効な活用法、評価の方法等について、情報交換・事例研究を行う。
- (2) 教員研修の企画・実施
 - 教員の指導力向上を目的とした研究授業の実施・事例研究等を行う。
- (3) 小中連携
 - 小中学校の教職員によるお互いの授業参観・指導法の検討等を行う。
- (4) CAN-DOリスト（中学校版）の活用
 - 生徒に明確な達成規準を示し、目標をもたせる。教員は、生徒に求められる英語力を達成するための指導と多面的な評価の一体化を図るため、具体的な学習到達目標を設定する。

4 研究推進の歩み

- (1) 平成23年度 (1年次)
 - ① 市内全学校共通の教材パッケージの作成と活用 (試行)
 - ② A L Tの有効活用と指導法研修実施
 - ③ 児童の意識調査と結果の考察
 - (2) 平成24年度 (2年次)
 - ① 教育課程の実践(教材パッケージの活用)と見直し
 - ② 中学校英語教育へのスムーズな連結
 - ③ 教員のスキルアップ
 - ④ 児童の意識調査と結果の考察
 - (3) 平成25年度 (3年次)
 - ① 小学校・中学校の連携 (中学校英語教育へのよりスムーズな移行)
 - ② 教員のスキルアップ (A L Tの参加による研修)
 - ③ 教育課程の実践(教材パッケージの活用)と見直し
 - ④ 児童の意識調査と結果の考察
 - (4) 平成26年度 (4年次)
 - ① 小学校・中学校の連携 (中学校英語教育へのよりスムーズな移行)
 - ② 教員のスキルアップ (A L Tの参加による研修)
 - ③ 教育課程の実践(教材パッケージの活用)と教科化に備えて
 - ④ 児童の意識調査と結果の考察
 - (5) 平成27年度 (5年次)
 - ① 小学校・中学校の連携 (中学校英語教育へのよりスムーズな移行)
 - ② 教員のスキルアップ (講師による研修と学校間交流)
 - ③ 新しい教育課程に基づく実践(教材パッケージの活用)と教科化に備えて
 - ④ 児童の意識調査と結果の考察
 - (6) 平成28年度 (6年次)
 - ① 小学校・中学校の連携 (推進委員会に中学校教務主任も参加)
 - ② 教員のスキルアップ (講師による研修と学校間交流)
 - ③ 教育課程の実践(教材パッケージの活用)と教科化に備えて
 - ④ 児童生徒の意識調査と結果の考察
 - ⑤ C A N - D Oリスト (中学校版) の作成 **別表**
 - (7) 平成29年度 (7年次)
 - ① 小学校・中学校の連携
 - ② 教員のスキルアップ (講師による研修と学校間交流)
 - ③ 小学校英語の実施に向けての検討
 - ④ C A N - D Oリスト (中学校版) の活用と修正
 - ⑤ イングリッシュパーティーの実施
- 5 今年度の研究推進の計画 (案) (平成30年度 (8年次))**
- ① 小学校・中学校の連携
 - ② 教員のスキルアップ (A L Tと連携した研修の実施)
 - ③ C A N - D Oリスト (中学校版) の活用と修正
 - ④ 小学校英語・外国語活動の移行措置の実施
 - ⑤ イングリッシュパーティーの実施

別表

弥富市中学校英語科 CAN-DO LIST

第1学年				
【中学校卒業時の学習到達目標】	○ 初歩的な英語を聞いたり読んだりして、情報を把握したり、話し手や書き手の意向を理解したりすることができる。 ○ 初歩的な英語を用いて自分の考えや気持ち、事実などを話したり書いたりして、積極的にコミュニケーションを図ることができる。			
【具体的到達目標】	小学校の外国語活動を踏まえ、初歩的な英語を用いて、身近な話題についてコミュニケーションを図ることができる。 ■外部試験による到達目標目安 実用英語検定5級			
4 技 能	Listening	学期	初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できる。	評価
		1	<input type="checkbox"/> 初歩的な語彙や表現で話される放送や、友達の自己紹介などを聞いて、内容を概ね理解することができる。	リスニングテスト
		2	<input type="checkbox"/> 交通情報や友達の一日の生活についてのスピーチを聞いて、情報を的確に聞き取ることができる。	リスニングテスト
	Speaking	学期	初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができる。	
		1	<input type="checkbox"/> 初歩的な語彙や表現を用いて、自分の名前や好きなことについて、聞き手を意識し、自己紹介することができる。	発表活動
		2	<input type="checkbox"/> 自分の習慣や一日の生活などについて、聞き手が正しく理解できるように工夫をしながら、スピーチ発表をすることができる。	発表活動
	Reading	学期	英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できる。	
		1	<input type="checkbox"/> 初歩的な語彙や表現で書かれた英文を読み、正確に読み取ることができる。	ワークシート 定期テスト
		2	<input type="checkbox"/> 家族と友達などの紹介文や海外の生活に関する会話文を読み、その正確な情報を読み取ることができる。	ワークシート 定期テスト
	Writing	学期	英語を書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができる。	
		1	<input type="checkbox"/> 自分の名前や好きなことを紹介する文を、3文以上で書くことができる。	ワークシート
		2	<input type="checkbox"/> 自分の一日の生活について紹介する文を、3文以上で書くことができる。	ワークシート
	基礎 技 能	語彙・発音	500語レベルの単語の意味や発音が分かり、そのうち太字の覚えたい単語400語程度を正しくつづることができる。	
		音読	リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴に注意しながら、自然なスピードで音読することができる。	
		文法	新出文法事項について、使用場面や言語の働きを考えて、コミュニケーション活動をすることができる。 【be 動詞 (肯定・疑問・否定) / 一般動詞 (肯定・疑問・否定) / 三人称単数現在形 (肯定・疑問・否定) / 命令文 / 人称代名詞 / 現在進行形 (肯定・疑問・否定) / 助動詞 (can) / 疑問詞 / 一般動詞の過去形 (規則動詞・不規則動詞)】	

※ 観点別学習状況の評価における四つの観点のうち、「CAN-DO リスト」形式での学習到達目標は、「外国語理解の能力」及び「外国語表現の能力」について評定する。

弥富市中学校英語科 CAN-DO LIST

第2学年

【中学校卒業時の学習到達目標】	○ 初歩的な英語を聞いたり読んだりして、情報を把握したり、話し手や書き手の意向を理解したりすることができる。 ○ 初歩的な英語を用いて自分の考えや気持ち、事実などを話したり書いたりして、積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。				
【具体的到達目標】	第1学年までの学習を基礎として、初歩的な英語を用いて、様々な場面で情報や考えなどを伝え合いながら、コミュニケーションを図ることができる。 ■外部試験による到達目標目安 実用英語検定4級				
4 技 能	Listening	学期	初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できる。	評価	
		1	<input type="checkbox"/> 過去の出来事や未来の予定などについて話された英文を聞いて、情報を適切に聞き取ることができる。	リスニングテスト	
		2	<input type="checkbox"/> ニュースや広告など特定のテーマについての英語を聞いて、必要な情報を理解することができる。	リスニングテスト	
	Speaking	学期	初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができる。		
		1	<input type="checkbox"/> 過去の出来事や未来の予定などについて、聞き手に正しく伝えることができる。	発表活動	
		2	<input type="checkbox"/> 電話や道案内など、実際の場면을想定しながら筋道立てて対話することができる。	スピーキングテスト	
	Reading	学期	英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できる。		
		1	<input type="checkbox"/> 様々な記事を読み、書き手の意向を理解し、正しく読み取ることができる。	ワークシート 定期テスト	
		2	<input type="checkbox"/> 短い物語を読んで、場面の変化や登場人物の心情などを読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 説明文を読み、書き手の意向を正確に読み取ることができる。	ワークシート 定期テスト	
	Writing	学期	英語を書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができる。		
		1	<input type="checkbox"/> 日記やメールの書き方を知り、過去の出来事や予定・夢について、読み手に正しく伝わるように4文以上の英文で書くことができる。	ワークシート 発表活動	
		2	<input type="checkbox"/> ルールに従って詩を英語で書くことができる。 <input type="checkbox"/> 自分の住んでいる町について、文のつながりや文章の構成などを意識し、まとまりのある4文以上の英文で表現することができる。	ワークシート	
	基礎 技 能	語彙・発音	900語レベルの単語や意味や発音が分かり、そのうち太字の覚えたい単語550語程度を正しくつづることができる。また、音の変化の規則も理解し、英語特有の発音で発音をすることができる。		
		音読	内容を理解している英文を、つながる音や変化する音について正しく理解し、自然な区切りやスピードで音読することができる。		
		文法	新出文法事項について、使用場面や言語の働きを考えて、コミュニケーション活動をすることができる。 【be 動詞の過去形/過去進行形/look+形容詞/未来形/SVOC/SVOC/不定詞(名詞的・副詞的・形容詞的用法) / have to~/助動詞(will・must) /接続詞(if・that・when・because) /There is/動名詞/比較表現】		

※ 観点別学習状況の評価における四つの観点のうち、「CAN-DO リスト」形式での学習到達目標は、「外国語理解の能力」及び「外国語表現の能力」について評定する。

弥富市中学校英語科 CAN-DO LIST

第3学年				
【中学校卒業時の学習到達目標】	○ 初歩的な英語を聞いたり読んだりして、情報を把握したり、話し手や書き手の意向を理解したりすることができる。 ○ 初歩的な英語を用いて自分の考えや気持ち、事実などを話したり書いたりして、積極的にコミュニケーションを図ることができる。			
【具体的到達目標】	第2学年までの学習を基礎として、初歩的な英語を用いて、自分の考えを伝え、情報を整理し相手の意向を理解してコミュニケーションを図ることができる。 ■外部試験による到達目標目安 実用英語検定3級			
4 技 能	Listening	学期	初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できる。	評価
		1	□ 様々な国の文化についてのスピーチや海外の情報を聞き、地図やグラフを参考にして、概要や要点を正確に聞き取ることができる。	リスニングテスト
		2	□ 議論での話者の主張や学校生活について、まとまりのあるスピーチの内容を正確に聞き取ることができる。	リスニングテスト
	Speaking	学期	初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができる。	
		1	□ 自分の選んだテーマなどについて、聞き手を意識しながら的確な英語でスピーチ発表をすることができる。	発表活動
		2	□ 身近な場面で聞き返したり、相づちを打ったりしながら、相手の立場を理解して、状況に応じた日常会話ができる。	スピーキングテスト
	Reading	学期	英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できる。	
		1	□ 日本文化や世界の国の文化についての記事を読み、写真などを参考にしながら、紹介されている文化について、正確に読み取ることができる。	ワークシート 定期テスト
		2	□ 物語を読み、自分の感想を述べられるよう、場面の変化や登場人物の心情を整理しながら正確に読み取ることができる。	ワークシート 定期テスト
	Writing	学期	英語を書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができる。	
		1	□ 海外の人に向けた日本文化の紹介文を、文章の構成を意識して5文以上で書くことができる。	ワークシート 発表活動
		2	□ 様々な主題について、情報や自分の考えなどが読み手に正しく伝わるよう、文章の構成を意識して5文以上で書くことができる。	ワークシート
	基礎 技 能	語彙・発音	1200語レベルの単語の意味や発音が分かり、そのうち太字の覚えたい単語600語程度を正しくつづることができる。 また、自己表現活動をする場面で、状況に応じ適切に語彙を使うことができる	
		音読	内容を理解している英文を、自然な区切りや適切なスピードで音読することができる。また、意味を理解した上で、感情を込めて音読することができる。	
		文法	新出文法事項について、使用場面や言語の働きを考えて、コミュニケーション活動をすることができる。 【受動態 / 現在完了 (継続・経験・完了) / 間接疑問文 / 疑問文+不定詞 / 仮主語 / 後置修飾 (名詞を修飾する語句・関係代名詞)】	

※ 観点別学習状況の評価における四つの観点のうち、「CAN-DO リスト」形式での学習到達目標は、「外国語理解の能力」及び「外国語表現の能力」について評定する。

平成30年度 弥富市小中学校キャリア教育の推進について

1 キャリア教育とは

キャリア教育は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義される。ここでいうキャリア発達とは、「社会の中で、自分の役割を果たしながら自分らしい行き方を実現していく過程」のことである。

つまり、一人一人の発達というものを、「自己」と「働くこと」の2つを結びつけながら歩いていく人生行路であると見なし、それを支援するのがキャリア教育である。

2 キャリア教育のねらい

キャリア教育のねらいは、個々の子どもたちが、社会の中で生きていくために不可欠な能力を育むことである。したがって、キャリア教育では、児童生徒の個性や発達段階を踏まえて目標を設定することが重要である。

弥富市としては、小中学校におけるキャリア教育の基本的な目標を以下のように考える。

- (1) 小学校（進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期）
 - ア 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
 - イ 身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上
 - ウ 夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得
 - エ 勤労を重んじ、目標に向かって努力する態度の育成
- (2) 中学校（現実的探索と暫定的選択の時期）
 - ア 肯定的自己理解と自己有用感の獲得
 - イ 興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成
 - ウ 進路計画の立案と暫定的選択
 - エ 生き方や進路に関する現実的探索

各小中学校においては、このような基本的な目標を基盤として、各校の独自性や地域性を踏まえて目標を設定し、望ましいキャリア教育の推進を図る。

3 キャリア教育で身に付けさせたい能力

- (1) 人間関係形成・社会形成能力

あいさつのように、基本的な生活習慣として他者との間で日常的に交わされるやり取りから、対人場面での問題解決といった、相手の立場を踏まえながらも自己主張するような機会まで、さまざまな対人経験を通じて形成される。
- (2) 自己理解・自己管理能力

児童生徒に対して、学習活動をはじめとした諸活動をできるだけ豊富に経験させることが、自らの能力に対する認識や、活動に対する興味・関心を高め、その結果として深い自己理解へと繋がる。

また、児童生徒に、自分の将来の夢を確認させたり、自分の性格を分析させたりすることで、自己管理能力の育成へと繋がっていく。
- (3) 課題対応能力

基本的な生活習慣の形成を基盤として、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動において、児童生徒に種々の問題解決に取り組ませることによって、課題対応能力を高めることに繋がる。
- (4) キャリアプランニング能力

児童生徒が、様々な社会人と交流し、自ら職場体験をする取組を企画することにより、キャリアプランニング能力の基盤を育むことが期待できる。

4 その他

各中学校で「キャリアスクールプロジェクト」を実施し、職場体験学習を推進する。

弥富北中学校で「キャリアコミュニティプロジェクト」を実施し、「ものづくりあいち」の魅力を生かした体験活動を推進し、各中学校へも発信する。

一人一人が輝き、よく学び 心豊かで たくましい 弥富の子
明日の弥富、平和な国際社会を担う人づくり

学校教育基本方針

児童生徒の生きる力の育成、それを支える学校の教育力向上を図る。

- 1 知、徳、体のバランスのとれた生きる力、児童生徒の将来に生きる力
 - 自ら学ぶ意欲を高め、確かな学力を養う。
 - 自他を大切にし、ともに心豊かな生活を築く態度を養う。
 - 命を尊び、心身を鍛え、たくましく生きる力を養う。
- 2 児童生徒の成長を支える環境整備、信頼と魅力ある学校づくりの推進

指導の重点事項

児童生徒の将来に生きる力の育成

小中連携による英語教育の推進

- ◇ 小学校外国語(英語)活動の充実に加え、中学校英語教育との連携を図る。

平和教育(広島研修)の推進

- ◇ 広島研修(中学校2年生対象)を中心に据えた平和教育を推進する。

キャリア教育の推進

- ◇ 体験や見学等の学習を通して、自己の生き方を考えさせるキャリア教育を推進する。

信頼される魅力ある学校づくり

開かれた学校づくり

- ◇ 学校と家庭・地域の連携を積極的に推進する。

特別支援教育の充実

- ◇ 特別支援教育支援員の配置など、個に応じたきめ細かい支援に努める。

安全安心な居場所としての学校づくり

- ◇ 防犯・防災・交通安全指導および衛生管理を推進し、危機管理体制の充実に努める。
- ◇ 台風や津波など、この地域に特有な災害を想定した避難訓練を地域と連携して実施し、防災教育の一層の充実に努める。

教職員の資質・能力の向上

- ◇ 管理職・ミドルリーダー研修、授業研修など、市主催の研修会等をはじめ、現職教育や教育研究活動の充実に努める。

幼・保・小・中の連携

- ◇ 特に、中学校区ごとでその実態に応じた課題解決に向けた小中連携を推進する。

生きる力の育成

確かな学力の育成

- ◇ 学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の編成を行い、各学校の特色ある取り組みを推進する。
- ◇ 少人数指導やチームティーチング等、指導方法の工夫・改善を行い、きめ細かな指導により、基礎・基本の確実な定着を図り学力向上に努める。
- ◇ ICT機器の活用を通して、児童生徒の学びを豊かにするとともに授業の効率化を図る。

豊かな心の育成

- ◇ 道徳教育の充実
 - ・ 心の教育を重視し、命を尊び、人権尊重の精神を養い、道徳的実践力の向上に努める。
 - ・ 弥富市民憲章等を活用し、よりよい社会の形成に主体的に参画しようとする態度を育てる。
 - ・ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める。
- ◇ 生徒指導の充実
 - ・ 自他ともに大切にすることを育て、いじめ等に対しては、各校のいじめ防止基本方針をもとに全教職員で予防と早期発見・早期解決に努める。
 - ・ 児童生徒理解に基づく共感的な生徒指導に努めるとともに教育相談活動を充実させ、いじめ・不登校の未然防止に努める。
 - ・ 全小中学校が「あいさつと返事」、「履き物をそろえる」、「時間を守る」の励行に取り組む。

健康な心身の育成

- ◇ 健康の保持・増進のために、運動に親しむ習慣や基礎的な体力を身に付けさせる。生徒の自主的・自発的な活動によって行われる運動部活動を適正に実施し、心身の育成を図る。
- ◇ 市内の全学校が自校給食の利点を生かし、給食指導の充実と食に関する指導を推進する。

各小中学校の取り組み